

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	保健医療サービス		授業コード	E042251
担当教員名	奥田 憲昭			
配当学年	3年後期	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得	講義をよく聞くとともに、教科書を用いて予習・復習を行い、なんども反復学習を行うこと。私語は禁止する。			
教科書	『保健医療サービス』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規			
参考文献及び指定図書	授業で紹介する。			
関連科目	高齢者福祉・介護保険			

授業の目的	社会福祉士試験を受験し、合格できる力を付ける。
授業の概要	保健医療サービスと社会福祉専門職の役割、保健医療サービスを提供する施設とシステム、医療ソーシャルワーカーの役割、保健医療サービスの提供と経済的保障等の問題について教科書を用いて授業を行う。出席、中間試験・期末試験で評価する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週:保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 I 1. 保健医療サービスとその構成要素(ひと・もの・かね・情報)、2. 戦後の保健医療サービスの整備・拡充について学修する。	予習:教科書第1章1頁～19頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第2週:保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 II 1. 医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題、2. 医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士について学修する。	予習:教科書第1章20頁～32頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第3週:保健医療サービスを提供する施設とシステム I 1. 医療法による医療施設の機能・類型、2. 保健医療政策による医療施設の機能・類型、	予習:教科書第2章33頁～52頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第4週:保健医療サービスを提供する施設とシステム II 3. 診療報酬における医療施設の機能・類型について学修する。	予習:教科書第2章53頁～55頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第5週:保健医療サービスを提供する施設とシステム III 1. 介護保険法における施設等の機能・類型、2. 在宅支援のシステムについて学修する。	予習:教科書第2章56頁～70頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第6週:保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 I 1. 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組みについて学修する。	予習:教科書第3章71頁～80頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第7週:保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 II 1. 業務内容(ミクロのソーシャルワーク、メゾのソーシャルワーク、マクロのソーシャルワークについて学修する。	予習:教科書第3章81頁～107頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第8週:中間試験 第1週から第7週までの範囲で試験を実施する。	試験勉強をすること
第9週:保健医療サービスと専門職の役割 1. 保健医療サービス専門職の概観、2. 保健医療サービス専門職の基本的姿勢、3. 保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割について学修する。	予習:教科書第4章109頁～138頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第10週:保健医療サービスの提供と経済的保障 I 1. 医療保険制度と診療報酬制度の概要について学修する。	予習:教科書第5章140頁～154頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第11週:保健医療サービスの提供と経済的保障 II 1. 介護保険制度と介護報酬の概要、2. 公費負担医療制度の概要について学修する。	予習:教科書第5章155頁～162頁を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。

第12週： 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 I 1. 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、2. チームケア実現のための制度や連携機関・団体について学修する。		予習：教科書第6章163頁～179頁を読んでおく。復習：プリントを繰り返し読む。
第13週： 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 II 1. 保健医療の専門職との連携の実際について学修する。		予習：教科書第6章180頁～195頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第14週： 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践 1. 地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識について学修する。		予習：教科書第7章198頁～232頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第15週： 試験について説明 試験について説明する。		第9週から第14週まで復習しておくこと。
第16週： 期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教科書で予習をし、講義をよく聞き、復習をする。
【知識・理解】	講義で取り上げた内容を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	授業で与えられた課題をまとめる。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	40点			
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	50点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	10点			
<b>(「人間力」について)</b>				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	出席・中間試験・期末試験で総合的に評価する。
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	